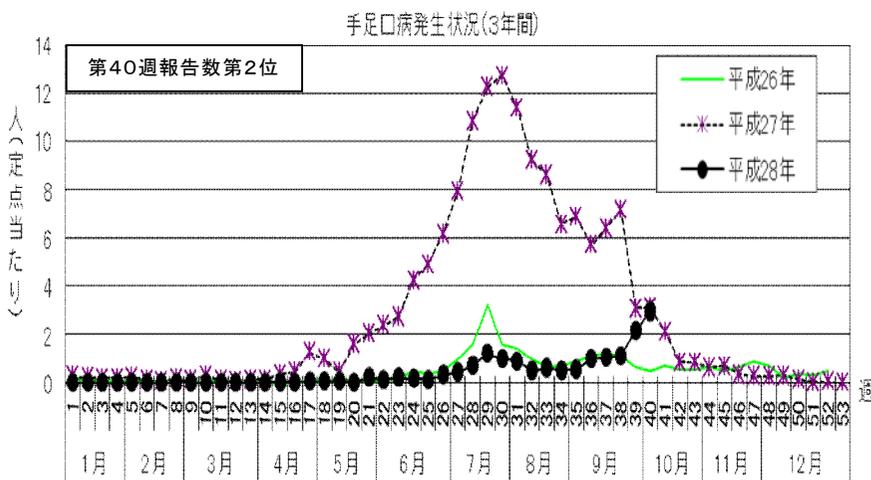
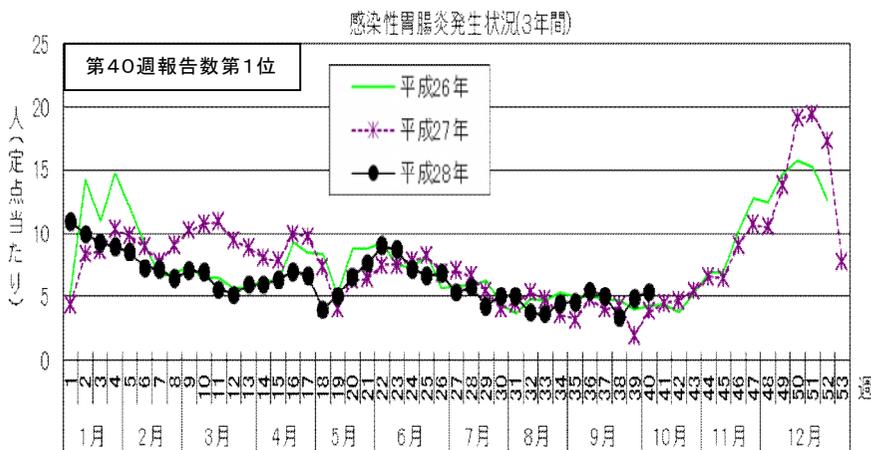


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年10月3日（月）～平成28年10月9日（日）〔平成28年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) RSウイルス感染症でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.36人と前週（4.86人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は2.97人と前週（2.17人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.69人と前週（2.47人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



## 気をつけたい感染症～マイコプラズマ肺炎～

マイコプラズマ肺炎は、咳を主症状とする呼吸器感染症で、6～12歳の学童期に多いのが特徴です。川崎市では、今のところ目立った増加はありませんが、全国的には5月以降報告数が増加傾向にあり、過去5年間と比較して平成24年に次ぐ勢いです。

### マイコプラズマ肺炎について

【感染経路】 飛沫感染

【潜伏期間】 2～3週間

【症状】

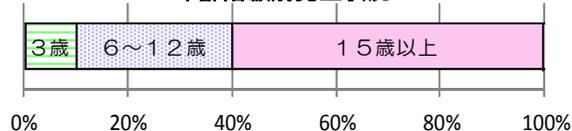
咳、発熱、全身倦怠感(だるさ)、頭痛などの症状で始まります。咳は次第に強まり、解熱後も3～4週間持続します。  
 多くは予後良好ですが、合併症として脳炎や心筋炎等を起こすことがあります。

【治療・予防方法】

抗菌薬によって治療します。  
 予防としては、手洗い・咳エチケット（マスク着用等）が重要です。



平成28年 川崎市におけるマイコプラズマ肺炎年齢階級別発生状況



全国におけるマイコプラズマ肺炎発生状況

